



すてきな音色をありがとう! 八宮分校で小さな演奏会

3月8日、福岡小学校八宮分校で、パンフルートの演奏会が開催されました。この演奏会は、全国各地で演奏活動を行っている、パンフルートの大束晋(おおつかしん)さんが同校での演奏会を希望し、実現したものです。ルーマニアの民族楽器であるパンフルートは、本来羊飼いの笛として使われていました。演奏会では、聞く人に安らぎを与えるような音色が、子どもたち心と、自然豊かな大網地区の空に響きわたりました。



▲パンフルートに合わせて「夕焼けこやけ」をみんなで合唱

わらべたち、健やかに育つね 白石城下わらべまつり

3月25日、^{すまろ}壽丸屋敷を中心に「白石城下わらべまつり」が開催され、市内から親子連れなど約70人が参加しました。この催しは、白石まちづくり株式会社が主催したものです。



▲全員で楽しく「大きな古時計」を熱唱!
壽丸屋敷では、図書館ボランティアの皆さんによる絵本の読み聞かせが行われたほか、仙南地区を中心に音楽活動を行っている「ままのいや」の皆さんが「桃の節句」などの歌を披露。優しく、温かい歌声が屋敷と参加者を包みこみました。

手作りのお祭りを楽しみました! 第8回つくし公園まつり

4月1日、つくし公園まつりが開催され、日ごろから公園を利用している子どもたちなど、多くの皆さんが参加しました。この日集まった子どもたちは、紙芝居やゲートボール、特設の駄菓子屋での買い物など、手作りのお祭りを楽しんでいました。

このお祭りは、毎年4月の第1日曜日に田町自治会や老人クラブ田町相生会、あしたば白石、碧水園の利用者などで構成する「つくし公園運営委員会」が開催しています。



▲強風のため、碧水園で絵本の読み聞かせ

小中学生の功績をたたえて 吉見教育基金顕彰状授与式

スポーツや芸術活動で優れた成績を収めた小中学生を顕彰する「吉見教育基金」の顕彰状授与式が3月26日、市庁舎で行われました。



▲今後の活躍が期待される子どもたち

この基金は、平成9年3月に閉園した和洋裁学校「吉見学園」からの寄付金を基に創設されたものです。10回目を迎えた今年は、スポーツ部門から空手や新体操などで活躍された個人9名と4団体、芸術部門から絵画で活躍された個人2名の皆さんに顕彰状と記念品が贈られました。

全力で皆さんを守ります! 白石市消防団春季消防演習

4月1日、白石川緑地公園で白石市消防団の春季消防演習が行われました。演習には、市内8分団から620名の団員が参加。部隊訓練や小型ポンプ操法訓練など、日ごろの訓練の成果を披露しました。

演習の締めくくりは、消防団全68班に配備された積載車とポンプ車からの一斉放水。ラッパを合図に一斉に放たれた68本の水柱は、市民の生命・財産を守る団員たちの強固な意志を表しているかのようでした。



▲一斉放水を行う団員の皆さん

集められたごみは約25t! 市内一斉クリーン作戦

4月1日、春の市内一斉クリーン作戦が行われ、6,879人の市民が参加しました。



▲集められたごみを次々に収集車へと積み込み

春の川干しに合わせて実施された今年のクリーン作戦では、自治会ごとに拾い集められた地域の道路沿いなどに落ちている空き缶やビニール類などは、市役所のほか中央公民館などの市内9カ所の地区公民館に集められました。前日にはNECトーキン(株)白石事業所やNECインフロンティア東北(株)の社員とその家族の皆さんもクリーン作戦を実施しています。

新たな門出を祝福! 手をつなぐ育成会「卒業を祝う会」

働く婦人の家で3月18日、障害を持つ子どもの親などで作る「白石市手をつなぐ育成会」が、この春に小学校、中学校および高等学校を卒業した子どもたちの新たな門出を祝い、「卒業を祝う会」を開催しました。



▲出席者全員での記念撮影

今年の会では、出席した多くの来賓の皆さん一人ひとりから、卒業のお祝いの言葉がおくられました。

また、この日出席した卒業生11人からは、これからの目標や意気込みが力強く発表され、出席者全員で新たな門出を祝福しました。

きれいなまちにおいでください! 春季川干し清掃奉仕作業

3月31日の朝、白石商工会議所と白石市観光協会との共催で、沢端川周辺の清掃奉仕作業を行いました。

この作業は、市で毎年実施している春と秋の川干しに合わせて行われています。今年は商工会議所と観光協会の会員など約150名が参加。沢端川の空き缶やペットボトルなどの回収を中心に、周辺の美化活動を行い、たくさんの人においでいただけるよう、参加者たちは奉仕作業に汗を流していました。



▲川底のごみを拾う参加者たち

皆さんは、「携帯」という言葉からどんなものを連想しますか? いろいろな品が思い浮かぶと思いますが、やはり多くの方は「電話」を思い浮かべるのではないでしょうか。「電話」は今や、老いも若きもほとんどが携帯しているのではないのでしょうか。電話を携帯するなど、昔は考えられないことであったと思います。固定電話、いわゆる黒電話を設置すること自体が夢だったはず。私自身も自分の電話を引くことが、大人としての夢・楽しみであり、ちよつとした誇りでもありました。電話加入権を購入し、回線工事を行ってようやく設置されたものです。ところが今は店に行き、機種を決め、料金プランや付帯機能の有無などの説明を聞いて署名すると、ポケットに入る電話機がすぐに使えるわけです。

しかし、ふと立ち止まって考えると、電話機だけが進化し、人が取り残されるといった現実には直面してはいないでしょうか? 実は石川県の能登半島地震の際、学生時代の先輩に被害状況の確認と見舞いを兼ねて携帯電話に電話したところ、普段と変わらぬコール音が聞こえて普通にながりました。「大丈夫でしたか?」の問いに、「こめん、今インドにいて、現地のことも電話で確認している。」との答え。自分も海外で携帯電話を使っていることがあるにもかかわらず、こ

風間市長の「虫の十ヶやき」 「携帯」

の答えにとっても驚きました。まるで国内で話しているかのようにクリアな通話で、何とも不思議な気分でした。通話後、ふとわれに返ると、「インドは今何時ごろだろう? 夜中だったら迷惑を掛けてしまったかな?」と、本質と違う心配ごとが増えました。ちなみに先輩宅に被害はなかったそうです。「携」とは「たずさえる。手に提げて持ち、手で相手と自分をつなぐ」という意味です。辞書では「携帯」が「たずさえて持つこと。身に付けて持つこと」とあり、用例

には「携帯電話」ではなく、「携帯ラジオ」と書かれていました。この辞書、10数年前のもので、携帯電話で電車や飛行機に乗りたり、食事や買い物をしたり、ニュースや天気予報の確認などなど、一台三役どころか、一台何役もこなせます。使いこなすと、こんなに便利なものはないのかも発生します。しかしながら料金がせる場合は賢く、そして計画的に利用しましょう。ある本には、「便利さに隠れた怖さを知って利用す

ることを忘れないようにしたいものです」と書かれていました。本当ですね。計画的なご利用を! そして分厚い説明書に尻込みせず、使いこなすことに挑戦してみましよう。

話は変わりますが、パソコン上で「タ」という文字を出すにはどう打てばよいか知っていますか?

【4月号の答え】
血液型は当初、A・B・Cの3種類と考えられていました。ところがその後の研究により、A・B両方の抗体を持っている血液型が発見され、AB型と呼ばれるようになりまし。それと同時に、両方の抗体を持たないC型をO(ゼロ)型と呼ぶことにしたそうです。